

9

ざっくり 聖書入門

「メシア」 ～前編～

誕生～公生涯前半



【聖書入門 全12回のアウトライン♪】

■旧約聖書■

- ①アダム
- ②ノア
- ③アブラハム
- ④ヤコブ
- ⑤モーセ・前編
- ⑥モーセ・後編
- ⑦ダビデ
- ⑧エレミヤ(預言者たち)

■新約聖書■

- ⑨メシア・前編
- ⑩メシア・後編
- ⑪使徒たち
- ⑫今を生きる私たち

【今日のアウトライン】

ふりかえり

- I. 王国の分裂と滅亡
- II. 南北時代の預言者たち
- III. 涙の預言者エレミヤ
- IV. 新しい契約
- V. エレミヤに学ぶこと



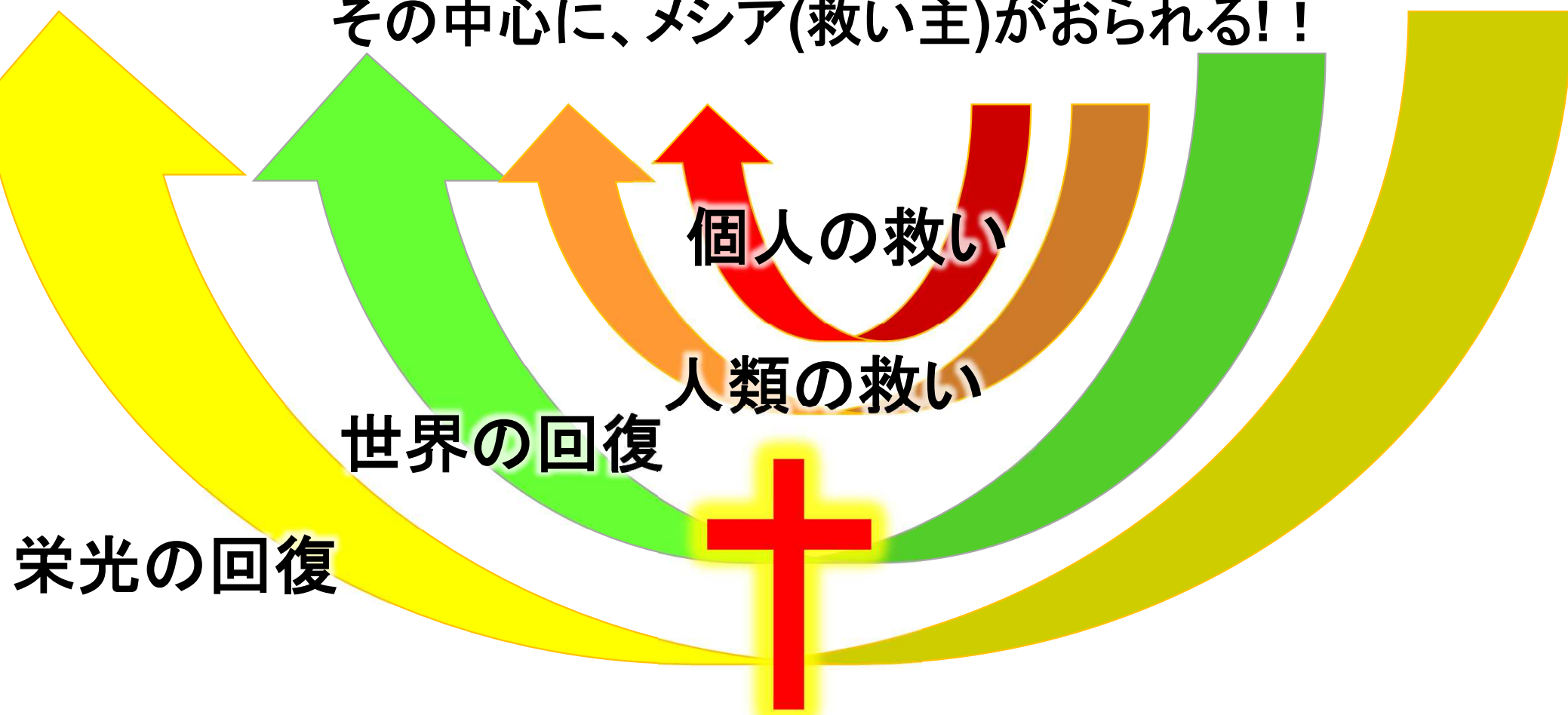


ふりかえり



聖書の最大のテーマは、「神の栄光の回復」

世界に神の栄光が回復される時、すべて回復される。
その中心に、メシア(救い主)がおられる!!



【恵みの時代】
天地創造

【良心の時代】
墮罪
~大洪水

【人類統治の時代】
バベルの塔事件

【約束の時代】
アブラハム
~ヤコブ

【律法の時代】
イスラエル
王国時代
メシア初臨

【恵みの時代】
聖霊降臨
世界宣教
メシア再臨

【御国の時代】
千年王国
大審判
新天新地

①エデン契約

②アダム契約

③ノア契約

④アブラハム契約

⑤モーセ契約

⑥土地の契約

⑦ダビデ契約

⑧新しい契約

神の約束が、人類と世界の歴史を導く!!

過去

現在

未来

【アブラハム契約とは？】

■聖書全体を貫く、大原則

神の世界回復と人類救済計画の柱

【三つの主な条項】

①子孫の約束

②土地の約束

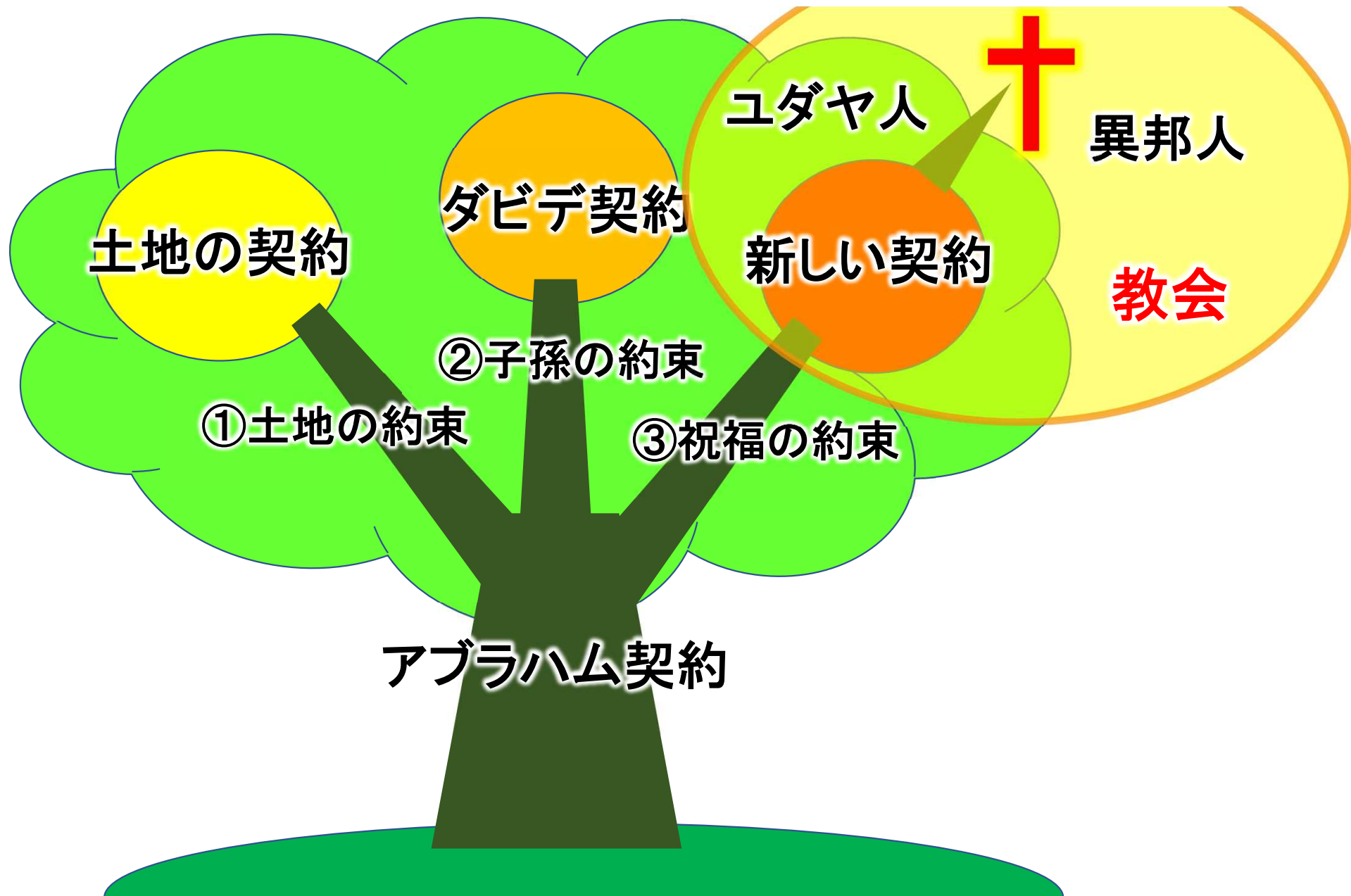
③祝福(地上の諸民族の祝福)の約束

※付帯条項 ...祝福と呪い。イスラエルの生存保証。

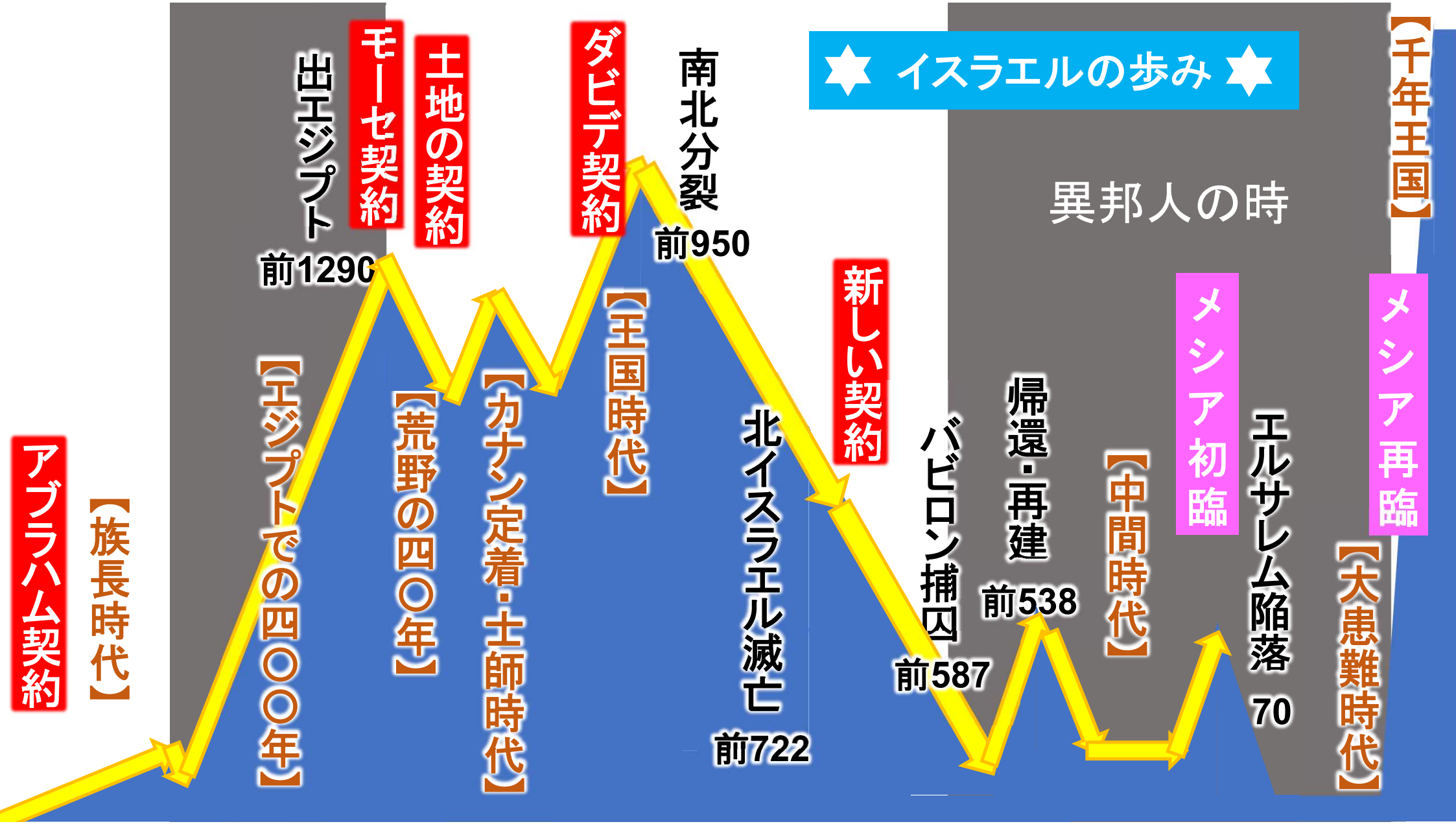
※しるし ...割礼

神の契約が、
アブラハムと子孫を
守り、導く





★ イスラエルの歩み ★



アブラハム契約

【族長時代】

【エジプトでの四〇〇年】

【荒野の四〇年】

【カナン定着・士師時代】

【王国時代】

南北分裂

前950

北イスラエル滅亡
前722

新しい契約

前587

バビロン捕囚

前538

帰還・再建

【中間時代】

メシア初臨

エルサレム陥落
70

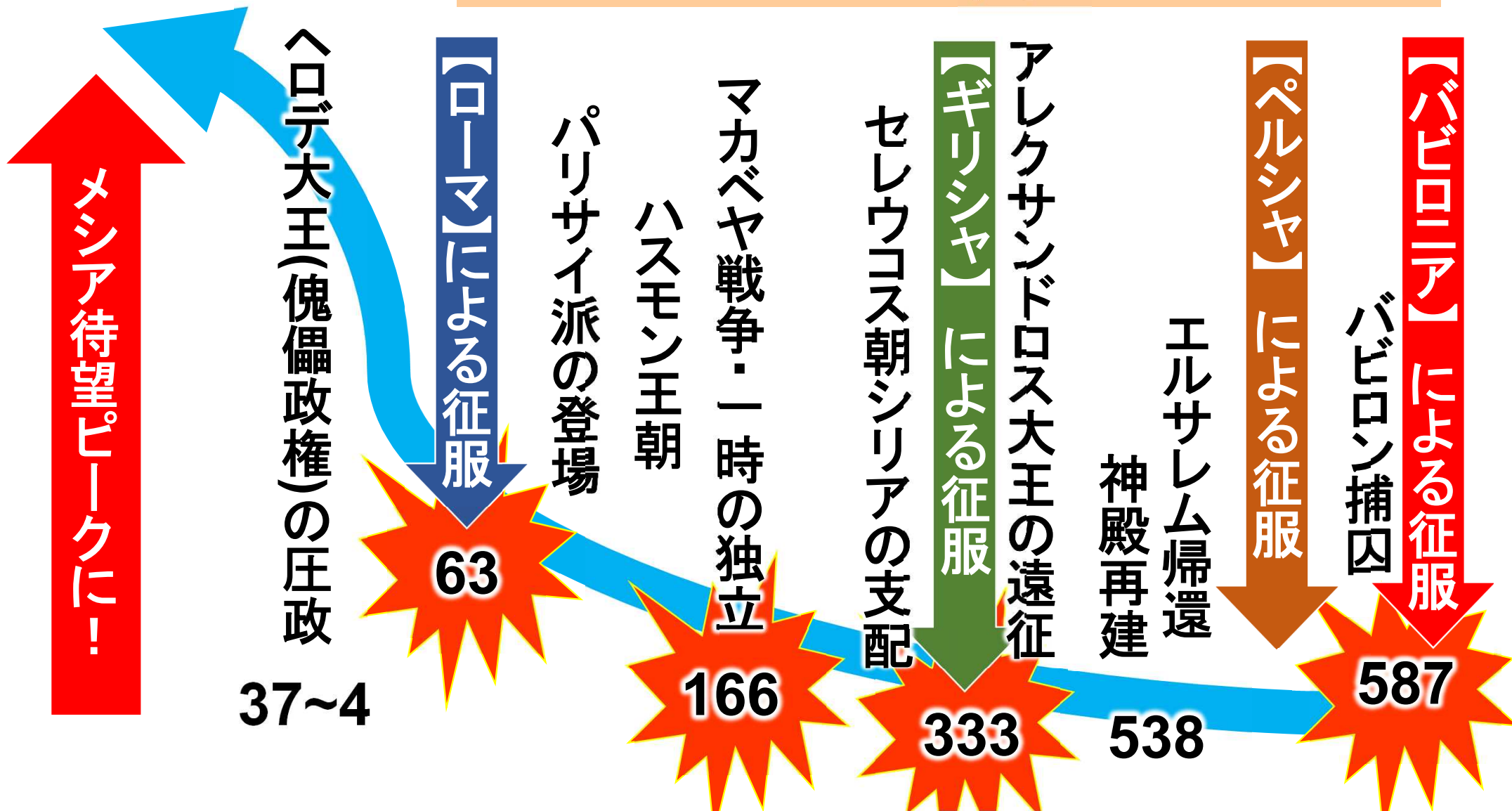
【大患難時代】

メシア再臨

【千年王国】

異邦人の時

中間時代に続いた、イスラエルの苦難



【パリサイ派の登場】

律法学者たちは、二度と律法を破ることは

律法の周りに「口伝律法」

(長老たちの言い伝え)

口伝律法が人々の重荷に!!

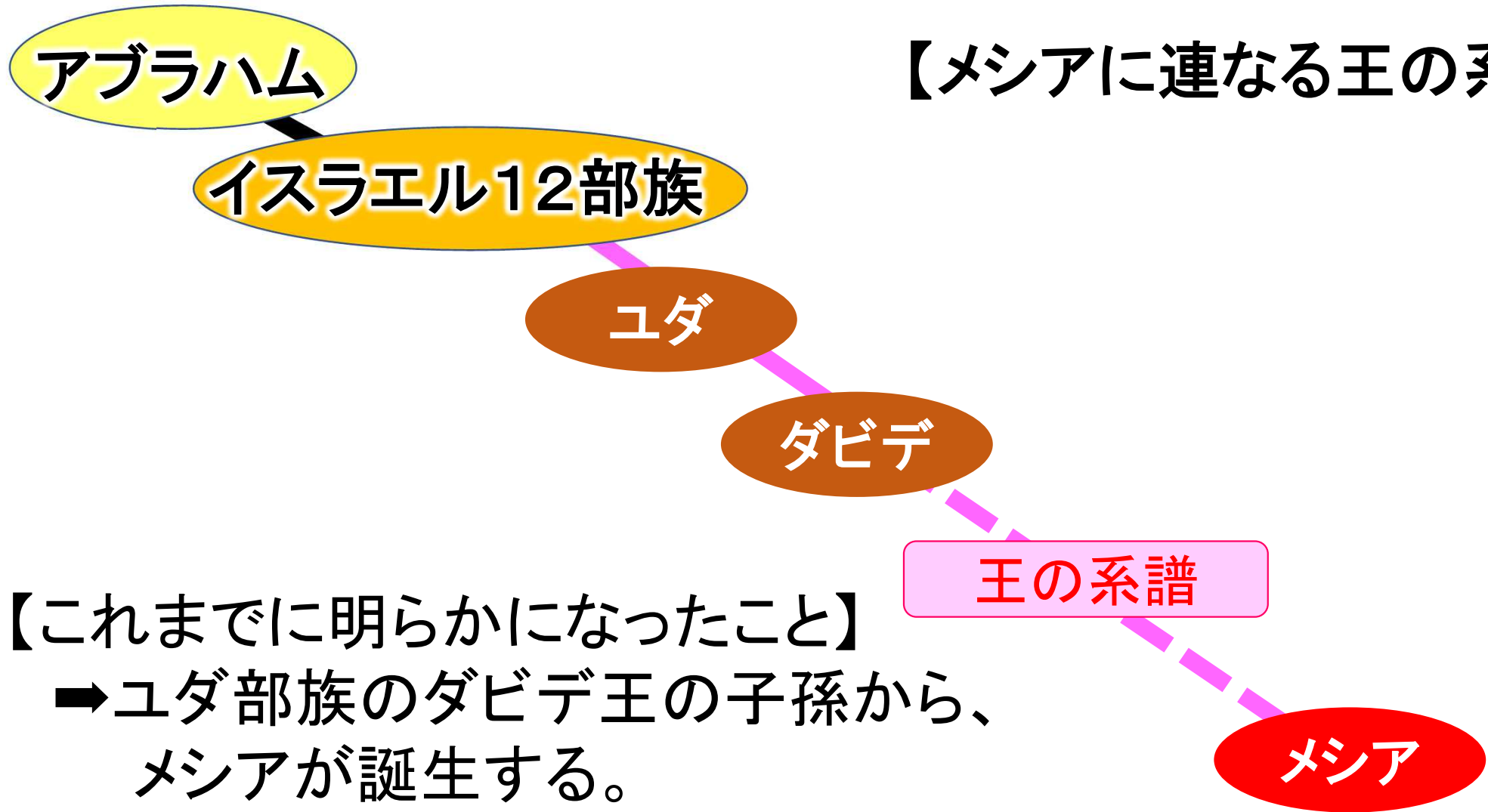


律法

垣根(口伝律法)

さらに教師たちは、「口伝律法」には、律法と同じ権威があると主張するようになった。 →パリサイ人(派)の誕生

【メシアに連なる王の系譜】



【これまでに明らかになったこと】

➡ユダ部族のダビデ王の子孫から、
メシアが誕生する。

「ダビデの子」は、メシアの称号の一つ。

そして、待望のメシアは、
数々の預言通り、ユダヤの
ベツレヘムで、乙女マリアより、
家畜小屋で誕生した。

人々に蔑まれていた
貧しい羊飼いたちだけが、
その目撃者となった。



ヘロデ王の暗殺の魔の手を逃れ、
一時エジプトに逃亡したイエスは、
帰還後、名もなきナザレの村で、
一人の大工として成長した。

すべてが忘れ去られたような
30年がすぎ、
神の時が、いよいよ動き出す。



【今日のアウトライン】

- I. イエスのバプテスマ
 - II. イエスの宣教の開始
 - III. ベルゼブル論争
 - IV. 神の国のたとえ話
 - V. まとめと適用
- 人生の分水嶺
信仰という決断



Ⅱ. イエスのバプテスマ 洗礼者ヨハネのもとで



【ヨハネの活動の開始】 マタイ3:1~6

3:1 そのころ、バプテスマのヨハネが現れ、ユダヤの荒野で教えを宣べて、言った。

3:2 「悔い改めなさい。天の御国が近づいたから」

3:3 この人は預言者イザヤによって、「荒野で叫ぶ者の声がある。『主の道を用意し、主の通られる道をまっすぐにせよ』』と言われたその人である。

- 洗礼者ヨハネは、最後の預言者。
メシア登場直前の先導者
例) 駅伝を先導する白バイ➡



【当時の主流の教え・パリサイ派の問題】

■ パリサイ派は、ユダヤ人なら誰でも神の国に行けると教えていた。(律法の遵守で地位が決まる!!)

➔ここでの「神の国」は、メシアが地上に建設する王国(千年王国・メシア的王国)のこと。

3:2「悔い改めなさい。天の御国が近づいたから」

■ しかし、神の国に入るためには、福音を信じる必要があり、福音を信じるには、悔い改めが必要。

■ メシアを迎える前に、心備えとして、悔い改めが必要だとヨハネは説いた。

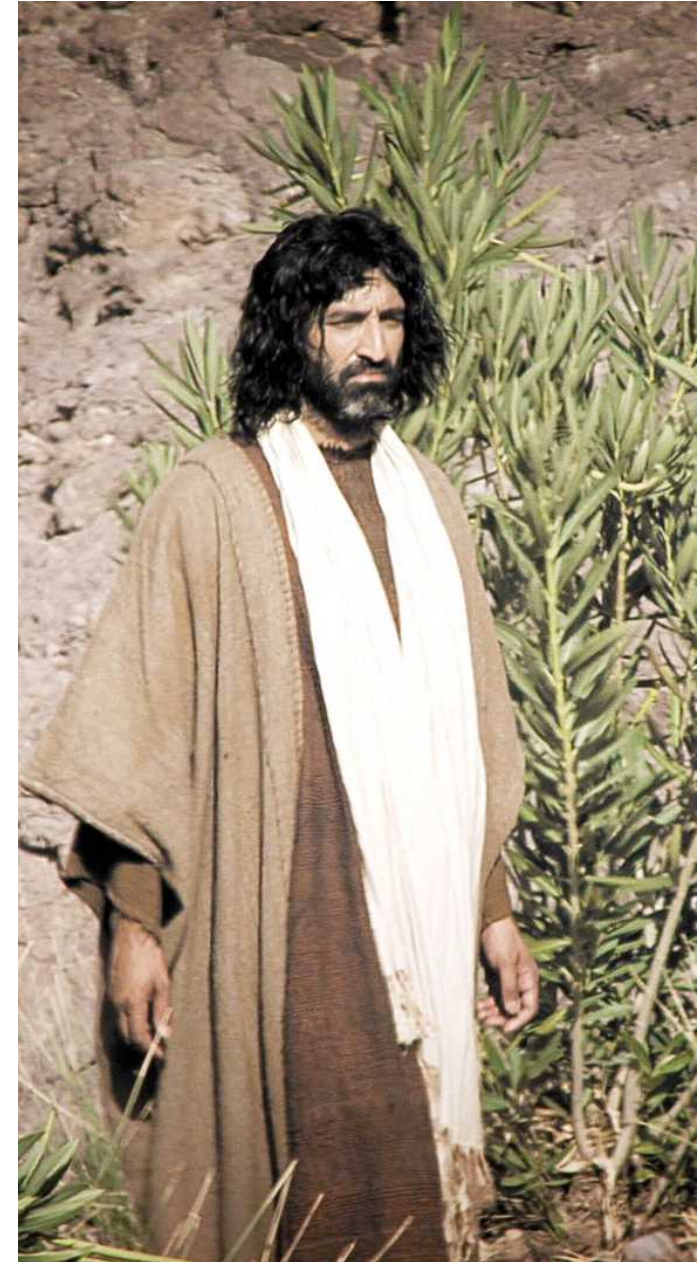
➔悔い改めのしるしがバプテスマ



【イエスの登場】 マタ3:13~17

3:13 さて、イエスは、ヨハネからバプテスマを受けるために、ガリラヤからヨルダンにお着きになり、ヨハネのところに来られた。

- ヨハネが洗礼を授けていたヨルダン川に、メシア、イエスがやってきた。
- 洗礼を受けたいと言うイエスに驚くヨハネ。
メシアに悔い改めが必要なのか？
→メシアとしての洗礼には、別の意味がある!!



【イエスのバプテスマ】 マタ3:13~17

3:16 こうして、イエスはバプテスマを受けて、すぐに水から上がられた。すると、天が開け、神の御霊が鳩のように下って、自分の上に来られるのをご覧になった。

3:17 また、天からこう告げる声が聞こえた。

「これは、わたしの愛する子、わたしはこれを喜ぶ」

* 父・子・聖霊の三位一体の神の顕現

➡ イエスこそ、罪なき神のひとり子だと明らかに!!



【イエスのバプテスマの意味】

「見よ、世の罪を取り除く神の小羊。」

ヨハネ1:29



■ バプテスマのもう一つの意味は、
死んで、生まれ変わること。

■ イエスは、究極の犠牲の子羊。
へりくだって人となり、人の罪を
負って死に、復活するために来られた。

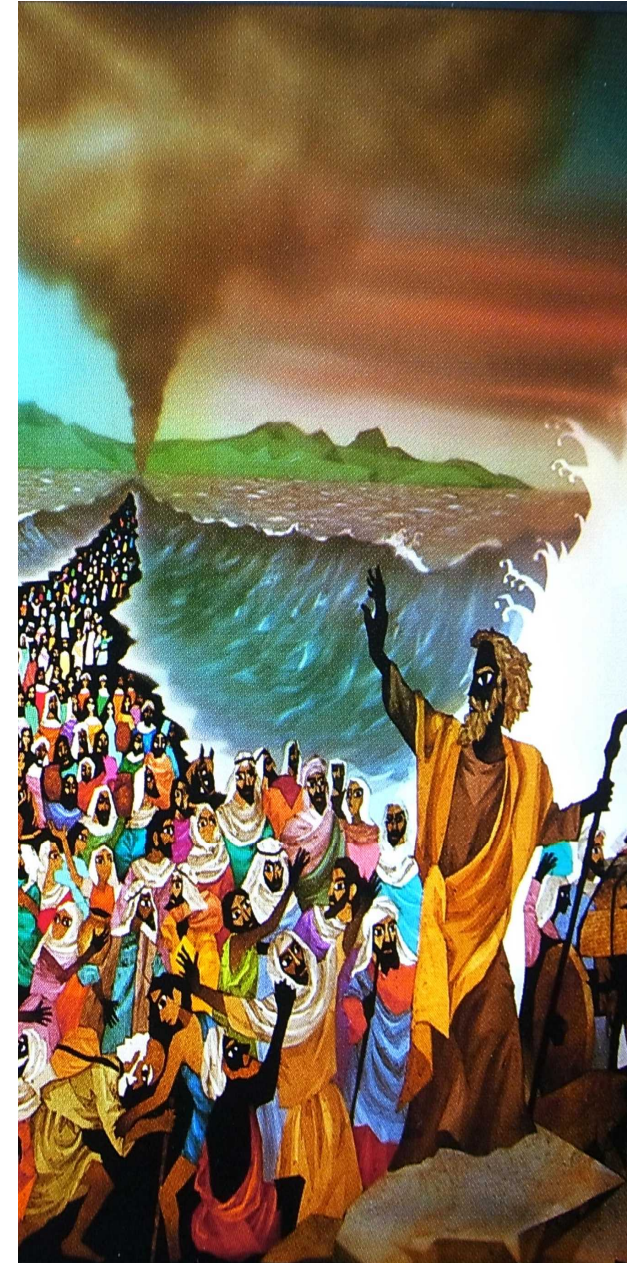
■ バプテスマで、イエスは、その使命に染めあげられた。
➡ここから、イエスのメシアとしての「公生涯」が始まった。

Ⅲ. イエスの宣教の開始



【40日の断食・荒野の誘惑】 マタ4:13

- バプテスマを受けてすぐ、イエスは、40日間断食され、律法(申命記)の言葉によって、悪魔の誘惑を退けた。
- かつて、イスラエルは律法を守れず、裁かれ、荒野の40年を放浪した。
- メシアは、律法を遵守し、誘惑を退けたイスラエルの真の解放者である。



【最初の弟子たち】 ヨハネ1:35～37

1:35 その翌日、またヨハネは、ふたりの
弟子とともに立っていたが、

1:36 イエスが歩いて行かれるのを見て、
「見よ、神の小羊」と言った。

1:37 ふたりの弟子は、彼がそう言うのを
聞いて、イエスについて行った。

■ 洗礼者ヨハネの弟子たちから、
イエスの最初の弟子たちが誕生した。

- ① ヨハネ、アンデレ ② ペトロ ③ フィリポ
- ④ ナタナエル(バルトロマイ)



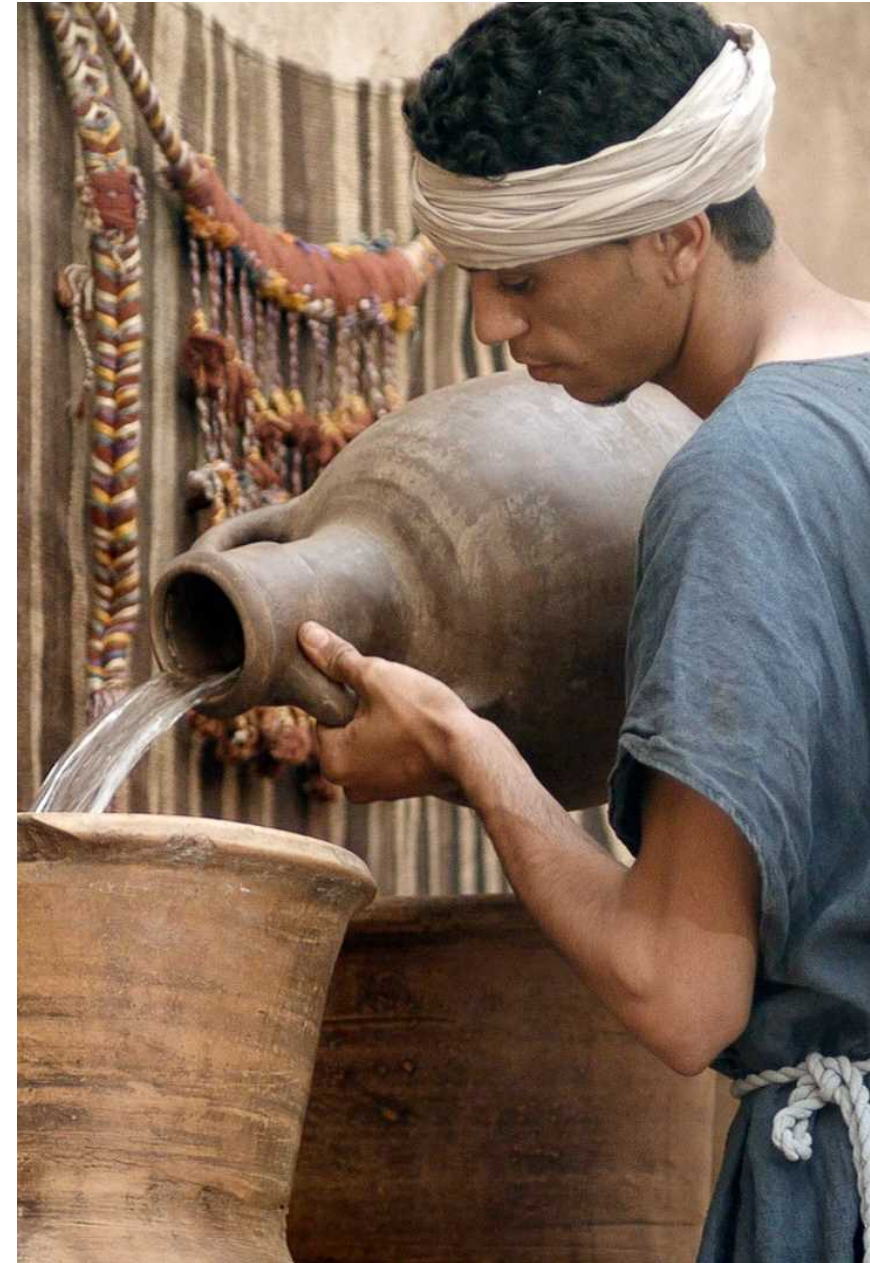
【最初の奇跡】 ヨハネ2:1～

■ ガリラヤのカナの婚礼の場で
イエスは最初の奇跡を行った。

■ 石のかめに入った、身を清める水が、
➡ぶどう酒に変えられた。

■ イエスの十字架の血潮こそが、
人々の罪を清める。その贖罪のしるし。

■ 主イエスを信じた者、クリスチャンは、
キリストの花嫁として天に迎えられる。



【12人使徒の選出】 マタイ4:18～

■ 四人の漁師が、
最初にフルタイムの弟子になった。
...ペトロ、アンデレ、ヤコブ、ヨハネ

■ 12人の弟子たち (10:1～)

①ペテロ(シモン) ②アンデレ、

③ヤコブ ④ヨハネ、

⑤ピリポ ⑥バルトロマイ(ナタナエル)、

⑦トマス ⑧徴税人マタイ、

⑨アルパヨの子ヤコブ ⑩タダイ、

⑪熱心党員シモン ⑫イスカリオテ・ユダ



【弟子の最初の派遣】 マタイ10:5~6

「異邦人の道に行ってはいけません。サマリア人の町に入ってはいけません。イスラエルの家の失われた羊のところに行きなさい。」

■福音は、まず、ユダヤ人に伝えられた!!

イエスは、イスラエルのメシアとして来られた!!

■この時点で、

人々が救われるために信じるべきことは？

➡イエスが、約束されたメシアだと信じること!!



【山上の垂訓・イエスの教え】 マタイ5～7章

■ イエスが、ガリラヤ湖畔で語られた説教集。

丘の上から、あるときは湖面から (ルカ6章)

(※すり鉢型の音響効果のある天然の劇場)

■ イエスは、人間の教えに過ぎないパリサイ派の「口伝律法」の間違いを指摘し、神の「律法」の、真の意味を教えられた。

■ 「山上の垂訓(説教)」とは、

➔ メシアによる直々の律法解釈!!



【山上の垂訓の厳しさ!!】 マタイ5:27,28

『姦淫してはならない』と言われたのを、
あなたがたは聞いています。

しかし、わたしはあなたがたに言います。
だれでも情欲をいだいて女を見る者は、
すでに心の中で姦淫を犯したのです。

例)山上の垂訓を読んで絶望した作家がいる。

➡なんで、こんなに厳しいのか？

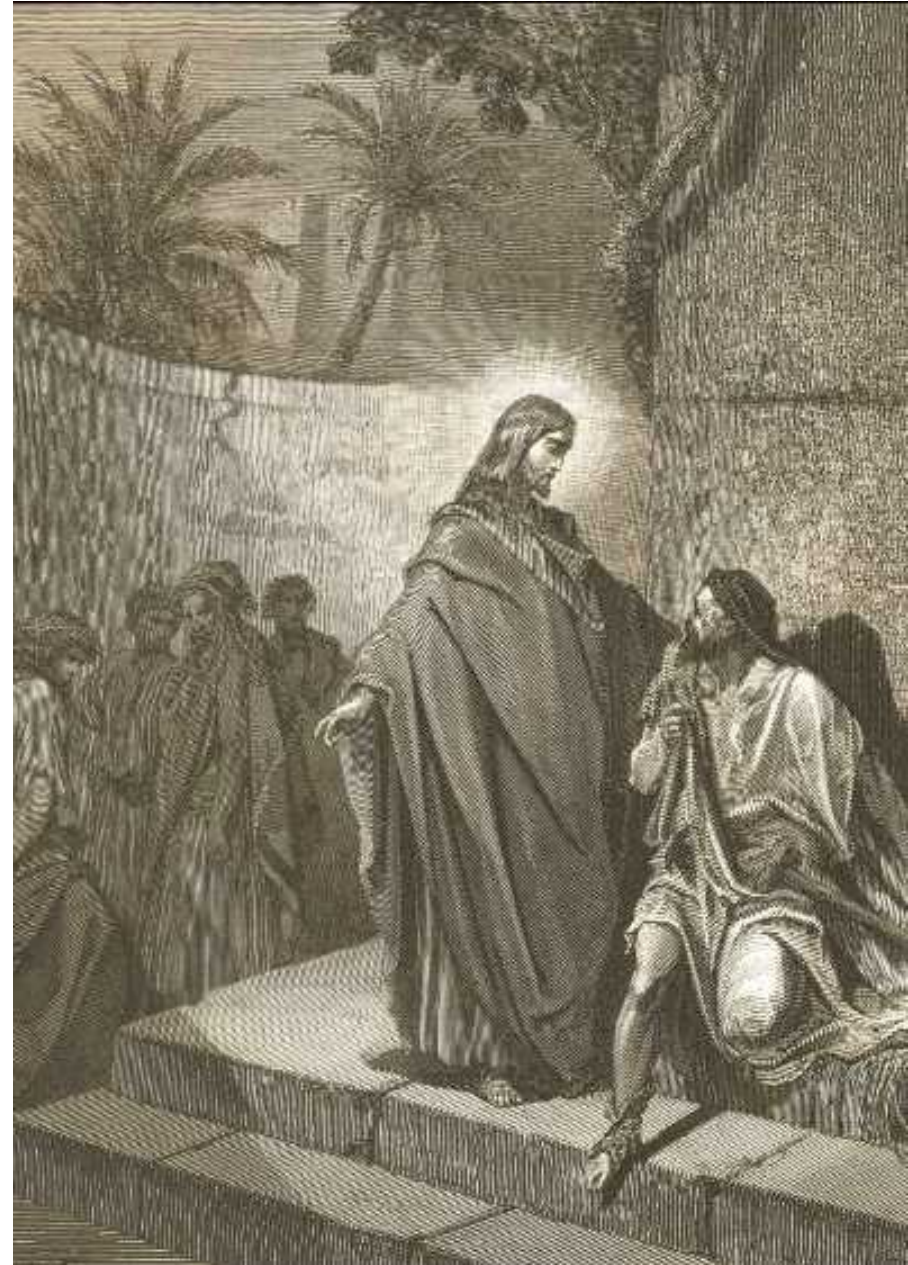


【山上の説教でイエスが教えたこと】

- 神は、心の中の動機までも問われる。
- 誰一人、神の律法を、
神の基準で守ることはできない!!
- 自分自身の心の貧しさを痛感した者は
幸いである。
- なぜなら、その人は、神の救いだけを頼り、
神によって救われ、
神の国に入ることができるからである。



Ⅲ. ベルゼブル論争



【イエスの奇跡の意味】 マタイ11:5~6

■ イエスが、囚われの身で揺れる洗礼者ヨハネに、私がメシアだと告げた、慰めの言葉。

「11:5 目の見えない者が見、足のなえた者が歩き、ツアラアトに冒された者がきよめられ、耳の聞こえない者が聞き、死人が生き返り、貧しい者たちに福音が宣べ伝えられている。11:6 だれでもわたしにつまづかない者は幸いです。」

■ イエスは、律法学者たちが、メシアの証拠と定義していた奇跡をことごとく行っていた。

■ イエスが、本当にメシアかどうか。
サンヘドリン(ユダヤ議会)は、調査を行った。



【サンヘドリンのメシア調査の三段階】

■ ① 観察

調査団が派遣。黙って観察する段階。

※床で運ばれた中風の人のお癒やし(マルコ2章他)

■ ② 審問

調査団と、イエスの論争が活発に行われる。

その中心が、安息日をめぐると論争。

※安息日の癒やし、麦の穂を摘む(マタイ12章他)

■ ③ 審判

イエスはメシアか否か、サンヘドリンの最終判断

➡ **ベルゼブル論争**(マタイ12章他)



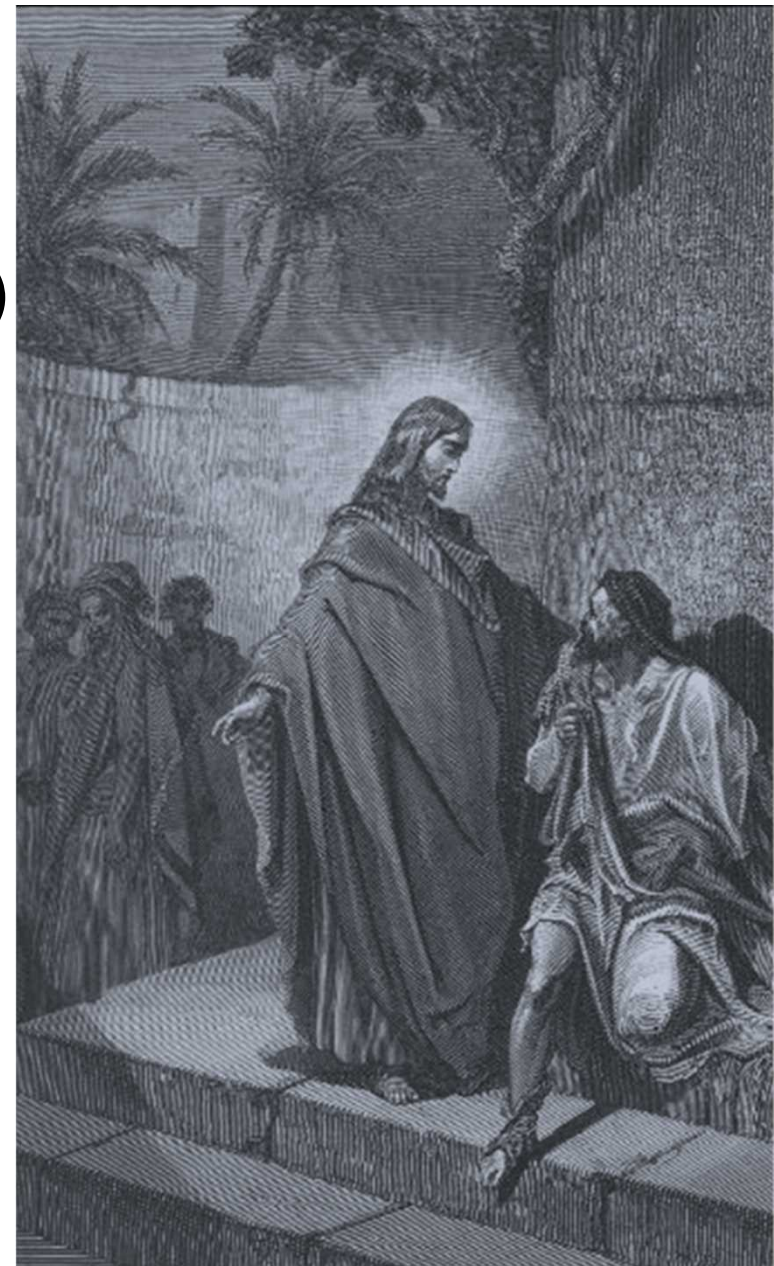
【ユダヤ議会の結論】 マタイ12:22～24

■ イエスは、悪霊につかれた目も見えず、口もきけない人を癒やした。(メシア的奇跡)

■ イエスは、「ダビデの子(メシア)」なのか、と驚く群衆に、パリサイ人は告げた。

「この人は、ただ悪霊どものかしらベルゼブルの力で、悪霊どもを追い出しているだけだ」

■ 彼らが告げたのは、サンヘドリン(ユダヤ議会)のイエスに対する公式見解。



【イエスの宣告】 マタイ12:27,31

12:27 また、もしわたしがベルゼブルによって悪霊どもを追い出しているのなら、あなたがたの子らはだれによって追い出すのですか。だから、あなたがたの子らが、あなたがたをさばく人となるのです。

12:31 だから、わたしはあなたがたに言います。人はどんな罪も冒瀆も赦していただけます。しかし、御霊に逆らう冒瀆は赦されません。

■ この世代のイスラエルに対する裁きとして、70年のエルサレム陥落が決定的となった。

■ 目の前のメシアを拒んだ ➡ 聖霊を冒瀆する罪



【メシア拒否 ⇒ 弟子訓練へ】

イスラエル
(指導者)



洗礼・バプテスマ
荒野の誘惑
弟子の召命

ガリラヤ伝道開始
メシア的奇跡

① 観察

安息日(律法解釈)論争

② 審問

ベルゼブル論争

③ 審判

たとえ話

ゲラサ・長血の女の癒し

五千人の供食

フェニキアの女の信仰告白

ペトロの信仰告白

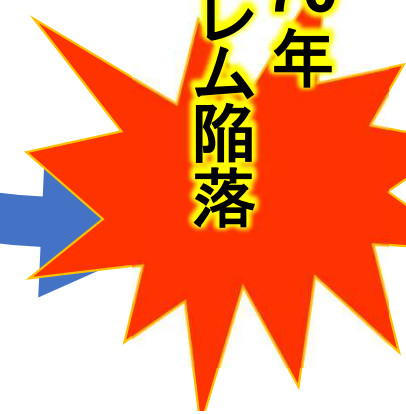
山上の変容

エルサレム入城

最後の晚餐



紀元70年
エルサレム陥落



IV. 神の国のたとえ話



【たとえ話とは？】

- いつから？ ... **ベルゼブル論争**以降
なぜ？ ... イスラエルが公式にメシアを拒んだので
なんのため？ ... 信じる者だけに分かるように語るため
テーマは？ ... **奥義としての神の国(教会)**
間近に迫った教会時代の“**教会への警告**”

「あなたがたには、**天の御国の奥義**を知ることが許されているが、彼らには許されていません。...わたしが彼らにたとえで話すのは、彼らは見てはいるが見ず、聞いてはいるが聞かず、また、悟ることもしないからです。マタイ13:12~13」

旧約では隠されていたこと→奥義

「神の国(天の国)」とは？ ...ベルゼブル論争以前

①永遠の王国 普遍的王国

②霊的な王国 (真の信者たち)

⑤千年王国

モーセ～ゼデキヤ

③神政政治の王国

メシア到来と共に!!

【地上における神の国】

「神の国(天の国)」とは？ ...ベルゼブル論争以後

①永遠の王国 普遍的王国

②霊的な王国 (真の信者たち)

⑤千年王国

④奥義としての王国

モーセ～ゼデキヤ

③神政政治の王国

【地上における神の国】

イエスが教えられた「神の国(天の国)」

①永遠の王国 普遍的王国

②霊的な王国 (真の信者たち)

新天新地

⑤千年王国

④奥義としての王国
≡教会時代

再臨～審判

モーセ～ゼデキヤ
③神政政治の王国

メシアの拒否～メシアの受容

【地上における神の国】



最初のたとえ 「種まきのたとえ」
～たとえ話の最初の型～

①道ばた

...み言葉を聞いても悟らない人

②岩地

...すぐ受け入れるが、すぐつまづく人

③いばら

...世に煩わされて、実を結ばない人

④よい地

...み言葉を聞いて悟り、実を結ぶ人

※鳥(orカラス)

...「悪い者」、サタン、悪霊

【種蒔きのたとえが教えること】

奥義の時代(教会時代)に伝えられる福音を、

- ①聞いても拒む人、
- ②受け入れるだけで終わる人、
- ③福音を伝えるようになる人が、いる。

今の時代のクリスチャンの使命は？

- とにかく福音を伝えること。
拒む人も、受け入れる人もいるが、
結果は負わなくていい。



マタ 13:31 「**天の御国**は、**からし種**のようなものです。
それを取って、畑に蒔くと、どんな種よりも小さいのですが、
生長すると、どの野菜よりも大きくなり、**空の鳥**が来て、
その枝に巣を作るほどの木になります。」

天の御国... 奥義としての神の国(教会)

からし種... 小さいものの慣用句

空の鳥... 種まきのたとえから適応すると？

悪い者、サタン、悪霊...

「空中の支配者」エペ2:2



【パン種のたとえ】 マタイ13:33～

「**天の御国**は、**パン種**のようなものです。
女が、パン種を取って、三サトンの粉の中に入れてると、全体がふくらんで来ます。」



天の御国... 奥義としての神の国(教会)

女 ... 宗教的存在。

★肯定的...「イスラエルの妻」「キリストの花嫁」

★否定的...「イゼベル(黙2:2)」「不品行の女(黙17)」

パン種 ... 象徴的に用いられた場合、例外なく、**悪・罪**。

(過越祭・除酵祭(出12:15)、I コリ5:6)

➡より具体的には、「**偽りの教え**」

(「パリサイ人、サドカイ人のパン種」マタ16:6)

【たとえ話・まとめ】

- イスラエルが公式にメシアを拒んで以降、イエスは、公の場では、「たとえ話」で語った。
- たとえ話は、解説なしには、意味が分からない。
 - ➡ イエスを信じ、付き従った者だけが理解した。
- たとえ話の内容は、神の国・教会時代の予告。
- イスラエルの拒否により、千年王国は先延ばし!!
 - ➡ 奥義として隠されていた「**教会時代**」が現れた。
- 教会は大きく成長するが、偽りの教えも入り込み、真偽が入り交じる状態が終末まで続く。



V. まとめと適用

実りをもたらす
よい地となるために



【たとえ話から学ぶ、教会時代の信者の役目とは？】

■ 御言葉の種を蒔くこと。すなわち福音を伝えること。

今の時代に伝えるべき福音は？

「イエス・キリストが、わたしの罪のために死んで、葬られ、復活され、今も生きておられるということ。」

■ その人の心が耕されているなら、蒔かれた種(福音)は、自然と芽生え、成長し、やがて実を結び、福音を伝える者になる。

■ 福音を伝えた結果は、主が負われる。

⇒ 福音を伝えることが、クリスチャンの責任。

【福音を伝えられるようになるためには？】

■ よく耕された、よい土のように、

へりくだった、やわらかい心になること。

■ 畑の石を取り除き、茨や雑草を抜き、土を砕くように、

心の中の妨げを取り除き、思い患いを主にゆだねていこう。

■ 主は、愛する子に試練を与えられる。

試練は、私たちの心をさらに打ち砕き、耕していく。

「神へのいけにえは砕かれた霊。打たれ砕かれた心。

神よあなたはそれを蔑まれません。詩篇 51:17」

【主の御言葉に聴き、従おう】

「聞く耳のある者は、聞きなさい」

- 心打ち砕かれ、へりくだって、主の御言葉を聴こう。
主は、一人一人の「聞く力」に応じて話される。
- 御言葉を、文脈に従い、正しく理解していこう。
- 神の計画と約束への理解が深まるほどに、
信仰はシンプルになり、さらに成長させられていく。

「天のお父さま。わたしは、御子(みこ)イエス・キリストが、

①わたしの罪(つみ)を贖(あがな)うために十字架で死に、

②墓(はか)に葬(ほうむ)られ、

③三日目に復活(ふっかつ)したことを信(しん)じます。

わたしの心(こころ)を、さらに開(ひら)いてください。

主(しゅ)よ。あなたは、愛(あい)するこどもとして、わたし

を訓練(くんれん)してくださいます。信仰(しんこう)を成長

(せいちょう)させ、多(おお)くの實(み)を結(むす)ぶ者(もの)

としてください。

主(しゅ)イエス・キリストの御名(みな)によって祈ります。

アーメン」